

小雪の中で笛吹きの戦

★京都府 京北 美山川
☆榎野川流域

「ヤンジャウー！・・・ううう寒いやんけえ・・・」
榎大橋の川原に車を停め、川面のライズを探しながらネオプレーンのウェイダーを履く・・・
解禁直後は移動性高気圧にスッポリ包まれる予報を聞いて、ポカポカ陽気のライズ捕りをイメージしたら・・・もはや天気図に縦縞が入りだしても止める事はできず、(何とかなるやろ・・・)と春一番の溪流開幕にやって来た。

黒灰色の空の下で淡々と流れるト口瀬は舞い落ちる小雪を小さな波紋で吸い込み続ける。

(何とかなるやろ・・・)が、大きな誤算であったことを知らしめる様に、いつまで経ってもお目当ての波紋は起らなかった。

悴む手に息を吐きかけライターをこすって、漸くタバコに火がついた。

吐息と煙が一瞬白く視界を遮る。

それでも目線は川面を断片的に数秒のフォーカスで切り刻んでいくが、やはりライズはない。仕方なく小雪のちらつく農道を少し下手に歩くとした。

向こう側から靴を下げた爺さんがやって来た。「券・・・持ってはりまっか?」・・・煙草を銜

えたままポケットから日券を取り出し爺さんにかざした。

「どないです?」

「これからですわ・・・」・・・と煙草を銜えたまま生返事をする・・・

「今日は天気悪いさかいなあ〜」・・・と言い残して去っていった。

(で・・・天気が悪いさかい・・・どないやっちゅう〜ねん?・・・榎堰堤とオゾバシリ堰堤見てライズなかったら場所変えよか・・・)と思いい、煙草をポケット灰皿に消しこむと川を見ながらゆっくりと榎堰堤に向かった。

程なく榎堰堤に到着、いつもならこの時期必ず餌釣師が陣取っているのに、この日は天気のせいか誰もいない。

「オッ??・・・アッ??・・・ライズしてるやん!」
それまで曇天に押し潰された気分が一気に高揚したのは言うまでも無い。ティペットの先に#20のダンバイビシブルを結び、即刻ライズめがけてキャストしていた。

しかし、これが今一步で出ない・・・出ても喰いこまない・・・毛鉤をCDCダンやミッシピューパーに変えても大して効果はなく、サイズダウンすると毛鉤の存在を無視する・・・あの手この手でプレゼンするが、カリカリするだけで一向に魚を手にはできない。

やがて背後で話し声がした。

振り向くと遠慮をとくに越えた「隠居爺さんが二人、長い軟調の餌竿を担いで川の葎藪を垂れている。

程なく私を中心にして下手に一人、上手に一人と別れて釣り始めた。

軟調竿がゆったりと弧を描き仕掛けが投入される。「隠居さんには脈釣りがキツイのか小さな玉浮きが波紋を広げた。

(おいおい・・・撒餌釣るかいつ)・・・と思う間もなく下手で竿が曲がり魚が抜かれて玉網に吸い込まれた。爺さんは竿を置き、上手の爺さんに玉網の中で暴れる魚を見せに行く・・・笑い声が聞こえてまた定位置に戻って行った。

今度は上手の爺さんの竿が曲がり、同じ様に下手の爺さんに魚を見せに行く。

何度かこれが繰り返されるも、二人の間でキャストする私の毛鉤には全く掛からない・・・いい加減イライラして来た。

「ピッ!」・・・下手で笛が鳴った。そちらに目をやると爺さんの竿がしなって魚が抜かれ、玉網に吸い込まれた魚を持ち上げて「こんな釣れた!」とばかりに上手の爺さんに見せている。それを見た相方の爺さんは「フムフム」と頷いている。

「ピッ!」・・・今度は上手で笛が鳴った。

同じ様に魚を抜き上げ下手の爺さんにかざして見せている。下手の爺さんも微笑みを浮かべ



て満悦の様子で大きく頷いておられる。

しかしながら、両者の間の私はサッパリ・・・

それからも「ピッー」「ピッー」と鳴っては右を向き・・・

「ピッー」と鳴っては左を向き・・・もはやイライラは頂点に達していた。

(ホンマの爺さんら、エエ加減にせえよ) 私の苛立ちをよそに「ピッピ・ピッピ・ピッピ」と両側で笛が鳴る。その度に何故だか私も見てしまう。

普段なら、ナツナと場所を変えてしまおうと一ろだが、なんだかこの笛吹き合戦に苛立ちを覚え、冷静さを失って少し意固地になっていた。

「ピッー！」一段と大きな笛の音が下手でした。見ると大きく竿がしなっている。

(なんじゃいー普通は「ピッー」で、でかいの釣れたら「ピッー」が合図かい?...)と思うや否や、手元に魚信が伝わった。慌ててロッドを立てるがすっぽ抜け・・・(なんじゃいー喰うとったやんけ!...)ツッア!...「ご見とんねんーあぁあ...バカたれがあぁ...ホンマ...」この日の初当りを爺さんの笛で惑わされてしまった。

こうなると、何が何でも(一匹獲ってから場所移動じゃー!)と更に意固地に拍車がかかる。

(ホンマ...じゃかましわ!...エエ加減にせいよー!)の「ジジイ」ども...「ピッピ・ピッピ」笛吹きよって...エエなぁもう絶対首動かすな!...笛が鳴っても見たらアカンぞ!...と変に熱くなっている。

毛鉤を交換するも、イライラしている為か、なかなかアイにティペットが通らない...大きく深呼吸した途端...「ピッー」って良型の合図がなった。すると首は確かに動かしていないが、意固地の神経は目には届かず、首はそのままで目だけが爺さんの竿先に回っていました。

(アカン!)と目線を手元に戻すと、つまんでいたハズの毛鉤が無い...「何しとんねん!せやから見るな」言ったやろあぁ...あぁあ...最後の「ミッシン」ピューパーヤったやないかあ

...糞たれがあぁ...と完全にペースは乱され、もはや釣りどころではなくなっていた。

寒さで悴んだ手がピルケースのミッシンボックスを上手く摘めず足元に落としてしまった。慌てて拾い上げると足元の薦に引っかかり蓋が開いて#26のバイビシブルがこぼれ落ちた。

(ヤバ...)と思った途端、ピュー...と風が吹いて...ここからは書くまでも無い。

(...エエ加減に...せえよ...)と発狂寸前...「こうなったらリアクションバイトじゃー!」と#18のソフトハックルを結んで殆どヤケクソ状態で引きまくる...しかし、弾かれる、今一步で喰わないを繰り返して消沈してしまっただ。

やがて下手で「ピッー...ピッー」と長めの笛が鳴った。そして竿をたたみ始めている。上手の爺さんも同じ様に竿をたたみ始めた。

(なんじゃいーあれが終わりの合図か?)程なく爺さん達は川から上がり、笑顔で話しながら上流に去っていった。

漸く長かった笛吹き合戦が終わり、静寂が戻ってきたが、苛立ちは後悔を伴って今にも爆発しそうである。

いい加減毛鉤を引きまくるのもアホらしくなつた為、毛鉤を#20の「ココタン」にして適当にキヤストして浮かべ、煙草に火を点けた。

(...アホなことしてもあつた...ナツナと



場所変えたらよかったのに……もう日没も近く薄暗くなってきている。

やや上手でライズがあった。ダメもどで50cm以上にプッシュ……どうせ出ないとタカをくくっている、予想に反してしっかりしたライズ

とともにフライが消えた。

「よっしゃあ……釣れたぞあ……」と釣り始めて漸く音がでた。こうなると鬱憤を張らず様に音がでる……あ……糞つたれが……ピッピ・ピッピ笛吹きあがって……悪魔が来

りて笛を吹く……エエ加減にせえ……よ……よおっしゃ……やあ……つと獲ったあ……この日のお初の魚をしげしげと見つけた。

どってことない放流あま……である。大きな溜息とともにリリースして毛鉤を付け替え様とするがマグライトを点けないと見えなくなってきた。それでも何とか毛鉤を結びなおし、マグライトを仕舞いこもうとすると紐の先っぽにホイッスルがついている。

「俺かて笛ぐらい持つとんねんぞあ……と、口に銜えてキャスト……漸く自分を取り戻したのか、簡単にヒットした。

(よっしゃ……と竿を立てるや否や、大きく息を吸い込み「ピ……ピ……ピ……ピッ……」っと思いつきリズを吹き、この日の鬱憤晴らし……俺かてえ……釣れたわ……糞……ジ……ジ……と大人気ない罵声を吐いて釣竿……

……傍から見てたら……アホやね……



この日の帰りは車の中で、しこたま反省したのは言うまでもない。お二人の「隠居さん」も、その昔はあちこちの溪を彷徨って居られたんだろ……青春・朱夏・白秋……と溪流を彷徨うことはできても、玄冬を迎えた「隠居さん」は、成魚放流の「あま……」を楽しむしかなかったのかも知れない。



私もいつか、加齢に負けて、溪に降りることでできなくなり、ロッドを置く日が確実にやってくる。

そう思うと、笛など吹かず、二人で話しかける様に釣座を譲るべきであった。

・・・なんて・・・思っただけだが、これがなかなか難しい。

■ 榊野川流域の「二案内」

美山川の「あまご解禁」で賑わう成魚放流区は、最近もっぱらこの大支流にあたる榊野川に集中している。以前は本流の中堰堤から南堰堤間の年もあったと記憶するが、このところはこの榊野川一色になっている。

昨年から成魚放流区が少し上手に上がり、オソバシリ堰堤から上流になった。

その分、狙える堰堤やトロ場が増えてライズ獲りには好都合になったが、滝台堰堤が区間から外れてしまったのが少し残念である。

例年、3月の半ば過ぎの週末に解禁する。

ライズ捕りが出来るのは、その年の状況にもよるが、概ね2週間が限度である。従って解禁した翌週か翌々週の週末を外すと、まず魚が殆ど居ない。そのくらい解禁のお祭りで終わってしまう。

毛鉤は#20〜#26で何とかなると思っており、釣れない時は、(後々考えると)結果として、見切りが早くてリアクションバイトに走りすぎてポイントを潰してしまった時か、そもそも立ち位置を大きく誤って難しいアプローチで釣っていた事に気がついてなかった場合が殆どである。

とにかく一級ポイントは必ず餌釣りの方が陣取っておられる為、少し浅く、かといって流れが余り速くないポイントが狙い目となる。

最近では西川の合流点を越えて殿大橋に向かうと直ぐにある堰堤がお気に入りとなっている。

ここは餌釣りが陣取るには浅く、通過して行くポイントであるが、底石が多くライズも多い。

でもポイントより何より、魚が居るうちに行かないと、魚影が薄くなってからでは何をやっても無駄である。

盛期になると西川に反れて上流に向かった「洞」あたりが狙い目・・・だった・・・最近「無沙汰なので、一応(だった)」としておく。実際、ここはかつて佐々里と分け合うくらいお気に入りの場所だった。

古い話で恐縮だが、この溪は釣りになる時期が非常に短い。初期は日陰になっており避けられやすいが、葦が川を覆うのも早い。従ってこの葦が川を覆う寸前(2週間もない)が狙い目で、昔は結構大釣りをさせてもらった記憶が何度かある。びっくりするほどのチャラ瀬でも20cmアップがバンバン飛んで出た日もあった。

ある年、この「洞」で溪から上がると田んぼに針金が張っており、不用意に近づいてプチ感電する事故に見舞われた。これは私の偏見かも知れないが、このあたりは余り釣りを快く思っておられないのでは?・・・と察する。

この事故以来、この溪から足が遠のいてしまった。

2007年 3月